

第39回技術士全国大会（大阪）専門部会・専門会議 開催内容一覧表（1/2）

名 称		会 場 開催時間	開 催 内 容
9 月 21 日 (金)	機械部会	2階会議室B 13:30～17:00 17:00～ 同室にて懇親会	13:30～13:45 近畿本部機械システム部会長の挨拶 13:45～15:15 基調講演 演題：最新のレーザ加工技術 講師：片山聖二教授（レーザ加工学会会長） 大阪大学接合科学研究所接合機構研究部門 15:30～16:30 各自の活動紹介と情報交換 16:30～17:00 本部・地域本部の活動紹介 17:00～19:00 懇親会（同会場で名刺交換と情報交換を行いますのでお気軽にご参加ください）
	建設部会	2階さくら東 13:30～17:00	13:30～15:15 講演会 演題：列島強靱化論～200兆円の財政出動でGDP900兆円の日本が生まれ～ 講師：藤井聡 京都大学大学院教授 藤井先生は専門の都市社会工学以外にも、マスコミなどへの出演のほか、新書、業界紙などに盛んな言論活動を行っておられます。特に昨年発刊された新書は、未曾有の国家的危機にさらされた日本、被災した街の再建をどうするか、電力の確保をどうするかから始まり、そのための財源の確保、内需拡大策、さらには日本の国土と経済を「強靱化」するための方策まで論じたもので、日本版ニューディールといえます。 15:30～17:00 意見交換会 統括本部及び各地域本部からの状況報告を行った後、参加していただいた会員の皆様方と共に意見交換の時を持ちます。
	上下水道部会	3階会議室3・4 14:00～17:00	14:00～16:00 講演会 演 題：津波と放射能 下水道における対応と対策— 講 師：野村充伸氏（地方共同法人 日本下水道事業団 技術戦略部長、技術士） この講演では、多くの自治体の災害復旧・復興を支援から得られた知見、研究結果を基に、大地震や大津波に対する下水道施設の復旧、対応策、さらに、福島第一原発事故による放射性物質の拡散による下水道への影響ならびに対応についても話していただく予定です。
	衛生工学会	3階会議室5 15:00～17:00	衛生工学会部会としての活動は今まで東京地区の活動が主体でしたので、今回の全国大会では、少しでも多くの衛生工学会部会の人脈の拡大の場として専門部会を考えています。午後からの専門部会に先立ち、大阪国際交流センター近くのダイキン工業堺製作所金岡工場の見学を行う予定です。
	経営工学会	3階会議室1・2 13:00～17:00 17:00～ 同室にて懇親会	我々準備委員会では堀内統括部会長らとも相談し、基本方針を企画書に纏めた。折角全国から集うのを機会に経営工学会部門技術士として企業・社会に対して「何が貢献出来るか」の日ごろの想いと研鑽成果の発表を行い、併せて情報交換も踏まえたフリーディスカッションの場としたい。さらにこれを機会に人脈・仕事脈を広げる。 【第Ⅰ部】研鑽成果発表会13時～15時（プロ・企業内技術士事例発表による話題提供） 開催挨拶 河内近畿本部経営工学会会長 統括ご挨拶 堀内統括本部経営工学会会長 発表1 矢萩三郎東北本部（山形支部） 発表2 福田真三統括本部「三陸復興協力活動」 発表3 石川君雄中部本部経営工学会会長 発表4 新庄秀光近畿本部幹事「時代に即応する組織運営技術」 【第Ⅱ部】パネルディスカッション15～17時 主に部会活動を中心にその内容と課題、今後の抱負など情報交換して議論する パネリスト：矢萩三郎（東北本部）、川口賢良（統括本部）、石川君雄（中部本部）、増田武司（近畿本部） コーディネータ：河内近畿本部部会長 【第Ⅲ部】懇親会 17時～20時 会費：3000円（当日徴収）
	情報工学会	3階銀杏の間 13:00～16:30	1. 基調講演「クラウドとビッグデータの連携」 講師：野田昭司(技術士 情報工学) 近年、わが国の景気低迷がものづくり企業の土台を揺るがし、IT投資の冷え込みにつながっていると思われます。しかし、その中で、「モバイル」、「クラウド」、「ビッグデータ」については明るい話題としてその連携と応用に注目が集まっています。「モバイル」で収集した「ビッグデータ」をパッチ処理で分析、あるいはリアルタイムに処理して、その場で一般消費者にフィードバックするような「クラウド」サービスが可能になるわけです。本講演では、「クラウドとビッグデータの連携」によって得られる果実は何かについてお話しします。 2. フリーディスカッション 現在話題になっている「ビッグデータ」の分析・活用について検討することによって、IT投資を成功させるための処方箋について議論します。また、「ビッグデータ」の操作には、合わせて、巨大なコンピュータパワーが必要になりますが、その問題解決のために「クラウド」化が有効であるかどうかについても検証を試みます。
	環境部会 近畿本部環境研究会	アウリーナ大阪 信貴の間 13:30～17:00	全国大会のテーマである「科学技術で社会を繋ぐ ～繋がりから生まれる新しい未来～」を踏まえ、現代社会を支える「ものづくり」の現場において、持続可能な社会を構築していくために環境等の技術について考えるパネルディスカッションを開催いたします。 1. 基調講演（13:35～14:25）「持続可能なものづくりの将来シナリオ」 梅田 靖氏 大阪大学大学院教授（機械系） 2. パネルディスカッション（14:35～16:45） コーディネーター 石丸公生氏（技術士、工学博士）㈱KRI元社長、(財)日本産業技術振興協会元専務理事、パネリスト ①藤本 悟氏 ダイキン工業㈱ CSR・地球環境センター室長 ②日野 克浩氏 ダイハツ工業㈱ 生産技術部 機能部品生技室 室長 ③木越 正司氏 技術士（建設部門） ㈱相建エンジニアリング代表取締役 ④山口 隆司氏 大阪市立大学大学院教授（建設系：橋梁） ⑤梅田 靖氏 大阪大学大学院教授（機械系）
	電気電子部会	見学会	見学場所：株式会社 エネゲート（関西電力グループ）千里丘事業所 見学内容：「スマートグリッド関連技術」 「EV(電気自動車)充電設備関連技術」の説明及び製造施設見学 開催日時：9月21日（金）13:00～16:00（JR千里丘駅集合：12:40）
	化学部会	見学会	統括本部と近畿本部・中部本部の化学部会グループを中心に、二回目の全国合同化学部会交流会を開催いたします。化学部会の皆様は、是非ご参加ください。交流、懇談できる場ですので、皆様のご参加をお待ちしております。 【内容】 ①日本触媒 姫路製造所 見学（集合：姫路駅南側 12:45） ②合同化学部会（情報交流会）（18時～19時、大阪駅前第一ビル） ③懇親会（19時～20時半） 会費3,000円 合同化学部会、懇親会の場所：大阪駅前第一ビル地下一階 「キング オフ キングス」 大阪市北区梅田1ー3 TEL：06-6345-2100
	金属部会	見学会	見学会：スプリング8（兵庫県作業町） スプリング8は、兵庫県播磨科学公園都市にある世界最高性能の放射光設備であり、和歌山毒カレー事件で砒素の分析を行い犯人逮捕の決め手としたお手柄設備であり、今は慧星イトカワから持ち帰った微粒子の分析に供しているとのこと。折良く、昨年にSACLA（サクラ）（X線自由電子レーザー施設）の運転が始まりました。大型蓄電リングとX線自由電子レーザー施設の両方を活用できる施設は、ここだけとのこと。世界最高級の分析施設を見ることが出来る。

第39回技術士全国大会（大阪）専門部会・専門会議 開催内容一覧表（2/2）

名 称		会 場 開催時間	開 催 内 容
9 月 21 日 (金)	第3回技術者倫理研究 ・全国情報交換会	2階さくら西 9:00～12:00	本会合は、四日市市で開催された第37回技術士全国大会にあわせて、全国の技術者倫理研究者の交流を深める主旨で、中部本部E Tの会をはじめとする有志が発起人となり、同会が事務局を担当してスタートしました。第3回となる今回合会では、今までの活動報告に加え、テーマを決めて情報、意見をまとめて議論する計画です。 原子力発電所事故等により毀損した、技術や技術者に対する信頼を回復するために、技術者倫理を広く正しく啓発することが重要です。全国の技術者倫理研究者が顔を合わせて対話する本会合は、技術者倫理の啓発活動を活発にし、方向性を決める良い機会と考えています。
	第8回全国防災連絡会議	2階小ホール 13:00～17:00	13:00～13:15 会長・近畿本部長挨拶 13:15～14:30 基調講演会 「阪神・淡路大震災と東日本大震災から南海トラフの巨大地震の襲来に備えて」 講師：関西学院大学総合政策部教授 室崎益輝教授 14:35～15:35 各地域本部からの現況活動報告 15:40～16:50 パネルディスカッション 「阪神・淡路大震災と東日本大震災から南海トラフの巨大地震の襲来に備えて」 ～過去の震災の実態と教訓、南海トラフの活動による大地震と津波襲来予測、行政との連携活動推進、地域への支援のあり方について～ 16:50～17:00 全体講評・閉会挨拶 18:00～20:00 合同懇親会 3階銀杏の間（会費4,000円）
	第9回技術者倫理研究 事例発表大会	2階さくら西 13:00～17:00	テーマ 「社会を繋ぐ技術者の役割と技術者倫理」 13:00～13:10 会長挨拶 公益社団法人日本技術士会会長 内村好 13:10～13:15 論文検討委員会報告 倫理委員会委員 飯田敏幸 13:15～13:45 なくならない家電事故、再発防止に向けての技術者の役割 小方弘成（機械部門） 13:45～14:15 IT技術者に関する最近の倫理問題と社会的役割 武安真児（情報工学部門） 14:15～14:45 歴史の中における技術者倫理の位置づけ 吉川豊行（機械部門） 14:45～15:15 異分野コミュニケーションと自己理解の技術者倫理 比屋根均（衛生工学部門） 15:15～15:45 安全で安心な技術で社会を繋ぐ技術士の信条 田中秀和（情報工学部門） 15:55～16:45 Q&A・会場ディスカッション コーディネーターCPD実行委員長 笹口裕昭 16:45～16:55 講評・閉会の辞 日本技術士会副会長 研修委員会委員長 小林洋一
9 月 23 日 (日)	中小企業交流研究会in大阪	2階会議室A・B 9:00～15:00	今回の大阪大会では、中小企業側のニーズについて、技術士側が十分に把握できていない事に加え、技術士の持っている経験や能力を十分に提供できていないと言う反省から、中小企業の経営層の方々と技術士との積極的な交流を図る事を目的とし、中小企業を支援する公的機関、大学等の教育関係者とも連携を密にして、技術士という資格がビジネスとして発展するためのきっかけとしたい。さらに、本会では、参加者が一同に会し互いのニーズ・シーズを交換する交流会を開き、中小企業支援活動の契機としたいと考える。 1. 基調講演（9:35～10:35） 「技術開発型中小企業の経営と課題・・技術士の役割も考慮して」 大阪市立大学創造都市研究科 明石芳彦教授 明石教授は、中小企業における技術マネジメントの研究や、アントレプレナーシップの研究における第1人者として活躍されている。今回の講演でも、中小企業の技術経営が如何にあるべきかという課題に、技術士がどのような役割を果たせるかという非常に興味深いテーマで話をして頂く。 2. 事例講演（10:35～11:15） 技術士の中小企業支援例と中小企業から見た技術支援の在り方について 技術士側からは、技術士という存在を知ってもらうために、技術士制度の仕組みや現状の説明と、中小企業の技術面や経営面に対して具体的に何を提供できるのかという事を、過去の事例を交えて話してもらう。中小企業の経営層からは実際には何に困っているのか、どんな形での援助を期待しているのかという事を話してもらう。 3. パネルディスカッション（11:20～12:30） 「技術士の提供できる技術支援と中小企業のニーズのギャップ」 事例講演のスピーカーと、基調講演の明石教授をパネラーとして中小企業の経営層が技術面で本当に困っている事の本質を探り、それに対してこれまで技術士がなぜ中小企業に深く入り込めなかったのかを議論する。 4. 交流会（12:45～14:30） 行政機関、中小企業経営者と技術者の交流で技術士の企業・社会貢献とビジネスへの発展を期待する企画と位置付ける。講演会で盛り上がった議論を継続するため、昼食時間を別に取り議論を中断する事無く、あえてパワーランチとして、講演会、パネルディスカッションの話題を交流会の中でも継続して議論する事で、忌憚のない意見交換の場となることを期待する。
	青年技術士の集い	2階会議室C・D 9:00～12:00	現在の青年技術士交流実行委員会の母体が出来てから約50年、近畿地区に青年技術士懇談会が設立されてからでも20年、すでに世代が変わってしまっている現在だからこそ、改めて青年技術士とは何か？何故青年技術士の組織が出来たのか？また、現在にも存在する意義は何なのか？改めて問い直す機会を設けたい、これが今年の「青年の集い」のテーマとなった。参加していただいた皆さんにとって、今後さらに考え、仲間と議論し、行動していくための起点としたい。そのために様々な地域から来られる参加者の豊富な視点をまずは、共有することを目指したい。従って、今回の「青年の集い」は、ワールドカフェ方式で行うこととする。ワールドカフェ方式とは、4ラウンド形式を基本とした対話型ワークショップである。最初のラウンドでいたテーブルから、次のラウンドでは、テーブルのホスト役を務めた人以外全員が違うテーブルに散り、第3ラウンドで元いたテーブルに戻ってくる。第2ラウンドで散らばった先でのテーブルの情報を第3ラウンドで元いたテーブルに持ち込むことから、一つのテーマに対して、様々な人の視点を持ち込み共有できる。そして、第4ラウンドで総括を行う。

※懇親会は3階銀杏（会費4000円）の他、各部会、各委員会が別途行う場合があります。
※その他詳細は各部会、各委員会にお問い合わせください。